

DPI日本会議も呼びかけ団体となっている「障害者の地域生活確立の実現を求める全国大行動実行委員会」では重度障害者の介護サービスについての調査を行いました。その速報の抜粋を紹介します。

## 重度訪問介護等介護派遣サービス実態調査 中間集計 ～速報版抜粋～

### ■調査の背景と目的

重度訪問介護は重度の障害者が地域で生活していくための重要なサービスです。しかし、福祉人材の確保とりわけ介護派遣の人材確保が困難であることは既に、厚生労働省自身が認めるところであり、更に、身体介護などと比較して単価が低い重度訪問介護のための人材確保は困難を極めています。そのために今回、重度訪問介護等に関して、事業者、ヘルパー、利用者のそれぞれの状況に着目した自主的なサービス実態調査を行いました。

### ■調査対象と調査方法

調査は全国の重度訪問介護事業を行う事業者、利用者、ヘルパーを対象に電子メール、ホームページ、FAX等により協力を依頼した。またヘルパーを対象とした調査は本年1月から2月にかけて1次調査を行っている。2008年4月25日より調査票を配布し、5月26日までに電子メール、FAX、郵送などで得た回答をもとに第一次集約を行い今回の中間集計とした。回答数は事業所54、利用者151、ヘルパー877(一次調査含む)である。

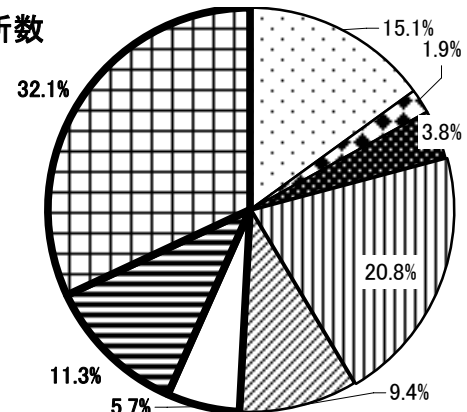
### I. 人材不足の現状

●回答のあった事業所数は54箇所、その半数以上は重度訪問介護の派遣時間が事業所の全派遣時間のうち8割を占め、また全体の利用者数のうち47%は障害程度区分6で占められ、重い障害を持つ者への介護を主に担っている事業所が多い。

●人材不足の状況であるが、全体を通じての離職率が22%、特に非常勤職員の離職率は26%という高い数字を示した。離職率20%を超える事業所がほぼ半分(49%)を占めた。(離職率30%以上の回答も3分の1に及ぶ)

離職率	22.9%
うち非常勤	26.60%

事業所離職率 事業所数

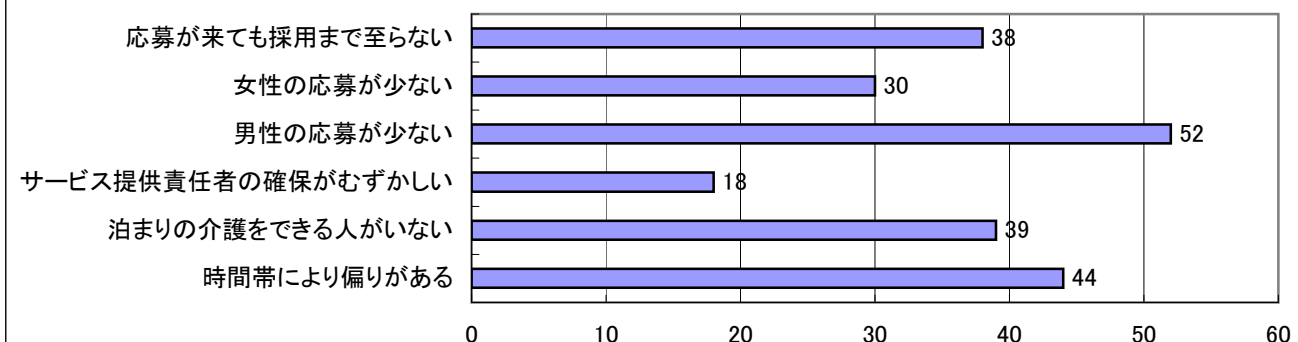


●ヘルパーの応募をしても月平均で2.3人しか面接に至らず、事業所が採用したヘルパーは14.8人にとどまり人材の確保がままならないことを示している

平均面接人数	2.3人/月
採用数平均	14.8人/年

●人材確保において事業所が何に困難を感じているかの問い(複数回答可)には、長時間であり、かつ身体介助全般を行う重度訪問介護では同性介護の求めが多いためか、「男性の応募が少ない」の項目が最も多く、次に「時間帯により偏りがある」(早朝夜間などが集まりにくいなど)が続き、「泊まりの介護をできる人がいない」「応募が来ても採用まで至らない」という回答も多くなっている。長時間、同性介護といった重度障害者のニーズに沿った人材の確保が、特に困難になっていることが分かる。

### Q. 求人の際して、人手を確保する上で困っていることはなんですか。



## II. ヘルパーの雇用と労働

●常勤職・ヘルパーの待遇、労働環境については、常勤職員の初任給が平均159,705円、同平均月収が210,078円、非常勤職員の平均時給は967円と一般の事業所を大きく下回る結果となった。

常勤職員大卒初任給	159,705円
-----------	----------

常勤職員平均給与額	210,078円
-----------	----------

非常勤職員平均時給	967円
-----------	------

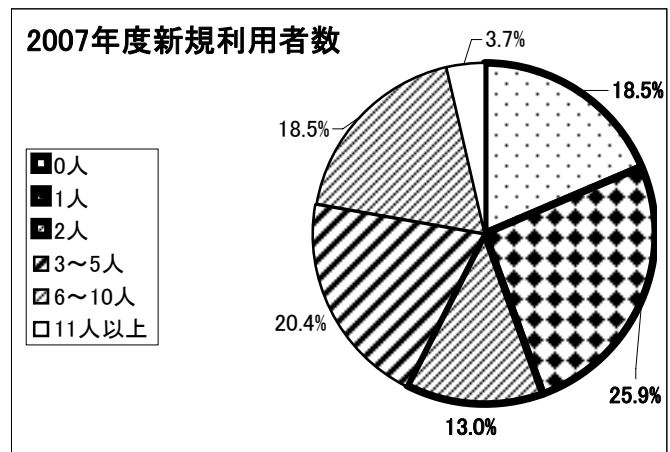
●さらに、昇給については常勤者は4割が「なし」、非常勤にいたっては勤続年数によって時給があがるケースは2割に満たない。

●低賃金、過重労働を強いられているが、事業所の人件費比率は全体平均で約78.8%にまで達しており、約半数の事業所が人件費率80%以上である。収支がマイナスになっている事業所も15事業所(31.9%)となり、いくら他の経費を削っても事業所としては報酬単価があがらなければ、これ以上人件費率を上げることも困難な状況まできている。

平均人件費率	78.8%
--------	-------

## III. 利用者への影響

●このような状況から、派遣現場やサービスを利用する障害者の生活にも影響が出ている。各事業所では新規の利用者を受け入れできない状況も出てきており、昨年1年間の新規利用が2人以下だった事業所が6割近くを占めた。(0人=19%、1人=25%、2人=13%)



### 【事業所が見つからない、ヘルパーがいない、生活ができない！～利用者の声～】

●利用者アンケートの自由記述欄には、重度訪問介護のサービス提供事業者を探すのが困難であったといった事例も寄せられている。

- ・(事業所に)電話をかけても、「できない、やれない、やらない」とか言って断られた。サービス提供責任者と詳しく話すこともないまま断られる。そういう時は「どうでもいいや」とか「死んでもいいや～」と思うときがある。
- ・特に土日祭日の泊り、日中のシフトが細切れ状態だったり見つからなかったりする。また、毎月月末になるとそのくり返しがあり精神的及び肉体的な負担が(不安も)大きい。
- ・夜間の泊り介助がやめる事になり、代替えの人を探すのに半年以上かかり大変だった。トイレと入浴が合体しており、人が探せず困っている。(ことに日曜日)
- ・ヘルパーが退職して、事業所から派遣してもらえる人がいなくなった。事業所自体が営業を止めてしまった。
- ・特に重度訪問介護サービスでは報酬単価が安く、市内で一ヶ所もサービスを利用できる事業所が見つからなかった。
- ・地域生活支援事業のほうが単価が高いため重度訪問対応の事業所がなかなか見つかりにくい
- ・泊り介護の出来る事業所(がない)。身体介護でないと受け入れてくれない。